

## 1. 広域化後の施設整備計画

### 1－1. 秩父地域における水道施設整備計画

秩父地域における、秩父市・横瀬町・皆野町・長瀬町・小鹿野町の1市4町の4水道事業体では、計画期間を平成28年～37年までの10年間として、橋立浄水場及び別所浄水場を拠点とした送配水施設整備計画を進めます。主な施設整備計画は、以下に示すとおりです。

- 秩父地域の拠点となる別所浄水場、橋立浄水場の整備
- 橋立浄水場から横瀬町方面へ配水できる水道システムの整備
- 別所浄水場から秩父ミュージアムパークを経由し、小鹿野町方面への配水と吉田地区・皆野町方面に配水できる水道システムの整備
- 別所浄水場から皆野町方面へ配水拡大できる水道システムの整備
- 橋立浄水場から高篠地区を通り、皆野町三沢地区へ配水できる水道システムの整備

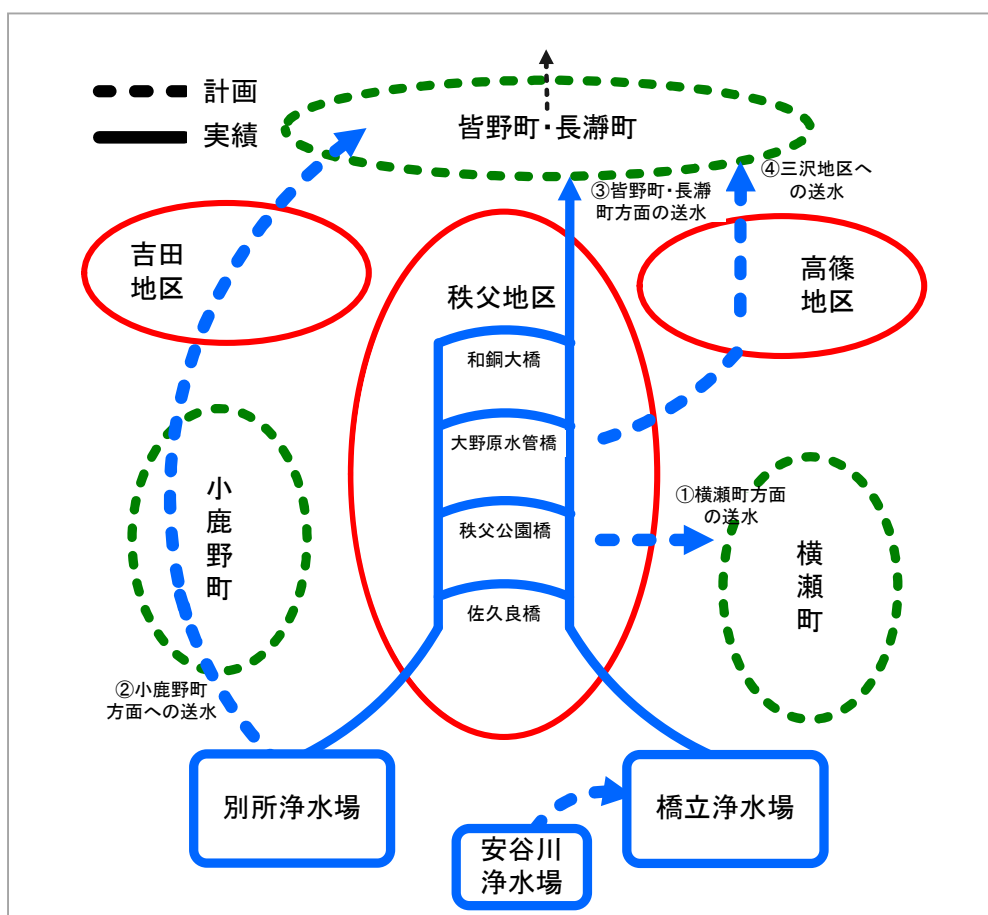


図 1－1. 秩父地域の水道施設整備計画（イメージ）

秩父地域における水道施設整備計画案は、図 1-1 及び表 1-1 に示すとおり。

表 1-1. 秩父地域における水道施設整備計画

広域化に関する施設運用・整備	主 な 効 果
① 姿見山配水池への配水計画	・姿見山浄水場とその取水施設の廃止 ・寺坂浄水場とその取水施設の廃止
② 新秩父ミュージズパーク配水池の建設	・荒川西岸浄水場の廃止 ・西岸低区配水池、西岸高区配水池及びミュージズパーク配水池の廃止 ・西岸低区送水ポンプ場、ミュージズパーク第1送水ポンプ場、ミュージズパーク第2送水ポンプ場及びミュージズパーク送水ポンプ場の廃止 ・小鹿野浄水場とその取水施設の廃止 ・小鹿野低区配水池、小鹿野第2増圧場及び小鹿野第2配水池の廃止 ・小鹿野町方面からの橋添架管路の更新も不要
③ 皆野第1配水池への配水拡大	・皆野浄水場とその取水施設の廃止
④ 新三沢配水池への配水計画	・三沢浄水場とその取水施設の廃止
⑤ 大指地区、古池地区(未給水地区)への供給計画	・古池地区への給水開始 ・大指飲料水供給施設の廃止
⑥ 石原地区への配水計画	・石原減圧井の廃止
⑦ 新秩父ミュージズパーク配水池から長留地区・柴原地区への配水計画	・低水圧地域の解消 ・国道140号から県道(皆野荒川線)の柴原地区までの老朽管の更新費(約2km)の削減、柴原配水池の廃止 ・小鹿野第3増圧場、小鹿野第4増圧場、小鹿野第8増圧場及び所の沢増圧場の廃止
⑧ 山口浄水場から森下地区への配水計画	・森下浄水場とその取水施設の廃止
⑨ 皆野第1配水池から金沢浄水場エリアへの配水計画	・金沢浄水場とその取水施設の廃止
⑩ 小鹿野浄水場エリアの拡大 (竹平浄水場エリア・三山浄水場エリアへの配水)	・浦島浄水場とその取水施設の廃止 ・三山浄水場とその取水施設の廃止 ・小鹿野浄水場系の低区配水池の一部廃止
⑪ 河原沢浄水場エリアの拡大(三山地区への配水)	・三山浄水場とその取水施設の廃止
⑫ 上田野配水池及び橋立浄水場への配水計画	・矢野沢取水施設の廃止 ・持小舎取水施設の廃止
⑬ 中井浄水場から大畑浄水場エリアへの配水計画	・大畑浄水場とその取水施設の廃止

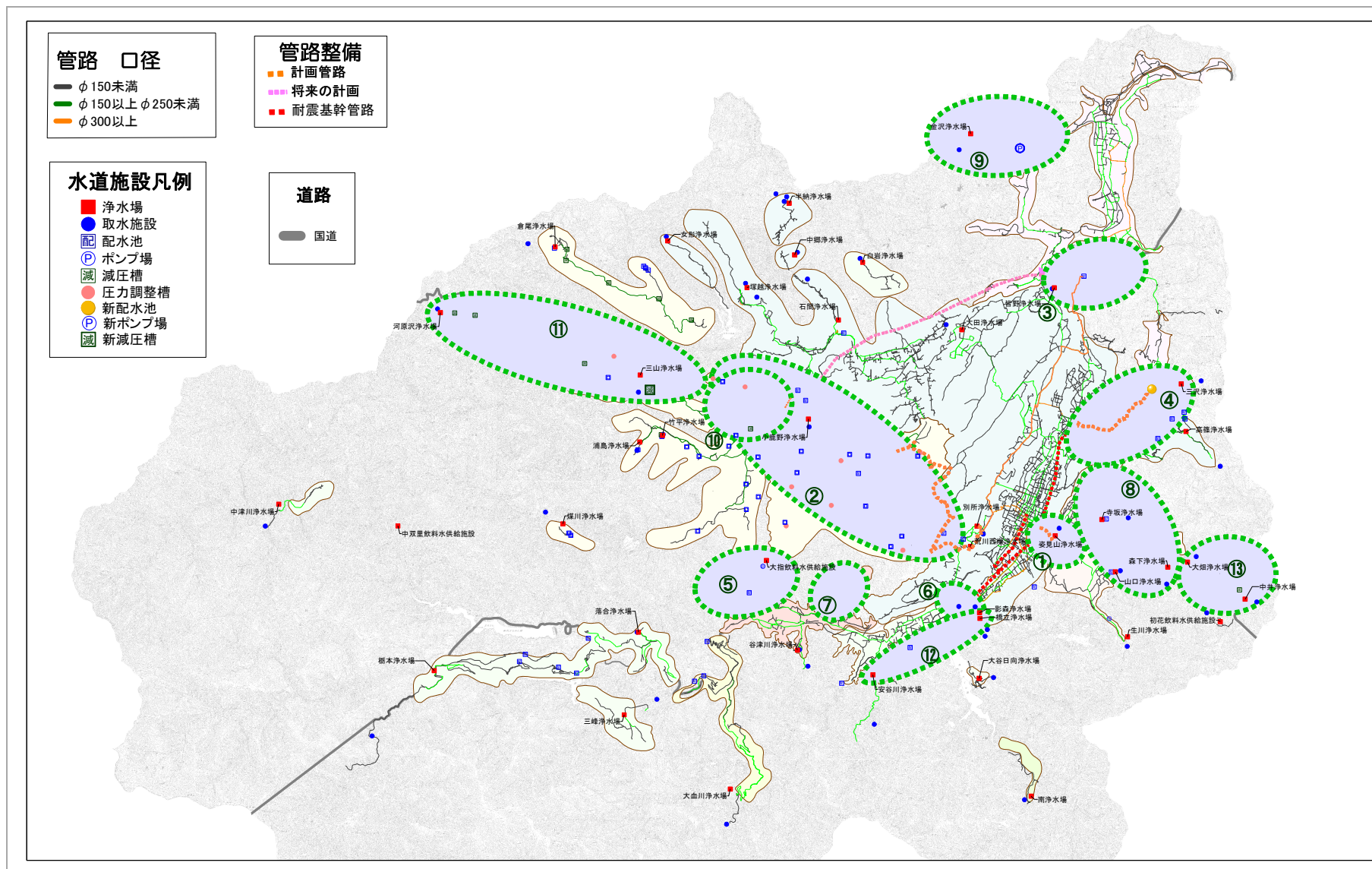


図 1-2. 秩父地域における施設整備計画

## 1-2. 秩父地域における送配水計画

1-1. の施設整備計画を踏まえて、長期的な広域化のあり方を展望しつつ、それらを実現するための送配水計画を検討します。

### ①姿見山配水池への送水計画

概 要	<p>橋立浄水場及び耐震基幹管路を整備し、姿見山配水池を更新して配水します。これにより、姿見山浄水場エリアに配水でき、姿見山浄水場の廃止ができます。</p> <p>(運用方法や送水時期の考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■橋立高区配水池(LWL 280.1m)から基幹管路(Aルート)を経由し、A-7区間の国道140号の羊山公園入り口から牧水の滝前を経由して姿見山配水池(HWL 292.3m)へ配水を行います。</li> <li>■配水分岐地点の工期は平成34年度です。平成34年度時点の橋立浄水場における余力能力を考えると、姿見山配水池への配水ができます。</li> <li>■寺坂浄水場は休止しており、姿見山浄水場から寺坂配水池へ配水しています。</li> <li>■平成38年度以降、橋立浄水場から姿見山配水池を経由し、山口配水池への配水ができます。これにより山口浄水場の廃止ができます。</li> </ul> <p>(平成34年度の水運用フロー)</p> <p>※峰沢・松ノ木沢・山田地区方面への系統切替は、平成36年度以降に実施</p>
効 果 (利 点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■施設統廃合による更新費用及び維持管理費の削減</li> <li>姿見山浄水場とその取水施設の廃止</li> <li>寺坂浄水場とその取水施設の廃止</li> </ul>
施設整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■配水管の整備           φ250 L=730m</li> <li>■加圧ポンプの整備       Q=2,500m<sup>3</sup>/日 h=25m</li> <li>■耐震基幹管路の整備   Aルート φ400 L=620m   φ600 L=2,171m   φ700 L=1,815m</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■橋立浄水場系の有効率が低い</li> </ul> <p>橋立浄水場系は有効率が低く、管路からの漏水量が多い。このため、橋立浄水場系の施設能力は、配水量の他、管路の漏水を考慮する必要がある。</p>



	<p>■橋立浄水場の施設能力(18,000m<sup>3</sup>/日)上限での運用が懸念される</p> <p>平成 34 年度において、姿見山配水池への送水を行う場合、橋立浄水場の施設能力は、漏水量を考慮しても約 3,000m<sup>3</sup>/日余裕がある。しかしながら、平成 36 年度以降の峰沢系、松ノ木沢系、山田方面の需要地の系統切り替え(別所系⇒橋立系)もあるため、慎重に検討を進める必要がある。</p> <p>■水利権の変更 姿見山⇒橋立</p>
概 要 図	別冊資料

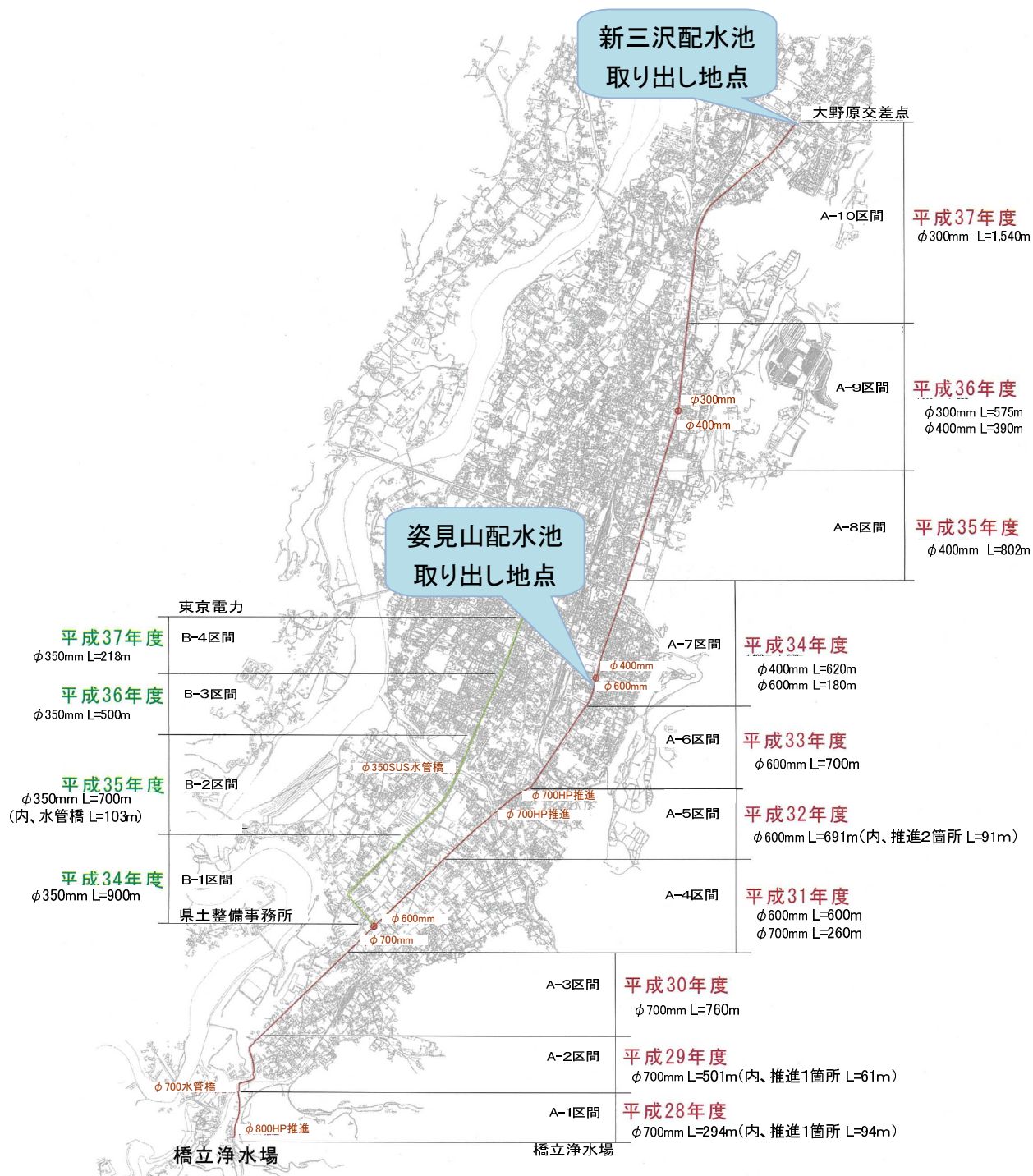


図 1-3. 耐震基幹管路年次割計画図

## ②新秩父ミュージアムパーク配水池の建設

<p>概要</p>	<p>秩父ミュージズパーク周辺に新たな配水池を建設し、別所配水池 (LWL 259.0m) から小鹿野町、別所・久那・尾田・長若地区方面に配水します。これにより、小鹿野浄水場と荒川西岸配水施設が廃止できます。さらに、皆野町、吉田・三田川・両神地区方面への配水区域の拡大ができます。</p> <p>(運用方法や配水時期の考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■新秩父ミュージズパーク配水池からの配水は、平成 34 年度より実施します。</li> <li>■平成 34 年度以降、峰沢・松ノ木沢・山田地区方面の系統切り替えが完了した段階で、小鹿野浄水場エリアに計画水量を送ることが可能になります。</li> <li>■吉田地区、皆野町方面への配水は、平成 37 年度以降の皆野第1配水池への段階的な配水拡大の計画を踏まえた上で、需給バランスや水量不足の緊急性を考慮して配水時期を決定する必要があります。</li> </ul> <p>(平成 34 年度の水運用フロー)</p>
<p>効果 (利点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■施設統廃合による更新費用及び維持管理費の削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>荒川西岸浄水場の廃止</li> <li>西岸低区配水池、西岸高区配水池及びミュージズパーク配水池の廃止</li> <li>西岸低区送水ポンプ場、ミュージズパーク第1送水ポンプ場、ミュージズパーク第2送水ポンプ場及びミュージズパーク送水ポンプ場の廃止</li> <li>小鹿野浄水場とその取水施設の廃止</li> <li>小鹿野低区配水池、小鹿野第2増圧場及び小鹿野第2配水池の廃止</li> <li>小鹿野町方面からの橋添架管路の更新も不要</li> </ul> </li> <li>■新秩父ミュージズパーク配水池からの自然流下で、小鹿野高区系エリア以外は配水可能となり、小鹿野低区配水池の削減も見込めることができます。</li> </ul>
<p>施設整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■配水管の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>別所浄水場から新秩父ミュージズパークへの配水ルート φ 350 L=4,200m</li> <li>小鹿野町方面への配水ルート φ 350 L=5,700m</li> </ul> </li> <li>■加圧ポンプの整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1加圧ポンプの整備 Q=7,200m<sup>3</sup>/日 h=100m</li> </ul> </li> </ul>

	<p>第2加圧ポンプの整備 <math>Q=7,200\text{m}^3/\text{日}</math> <math>h=63\text{m}</math></p> <p>■配水池の整備 <math>V=1,500\text{m}^3</math> 2 池</p> <p>■減圧槽の整備 <math>V=100\text{m}^3</math></p>
課 題	<p>■秩父ミュージアムパークに新配水池を建設し小鹿野町、吉田地区、皆野町方面への配水計画新秩父ミュージアムパーク配水池への送水のため、加圧施設の設置や別所配水池から新規配水池までの送水管の整備、新配水池から需要地への配水本管の整備が必要になります。</p> <p>■小鹿野水源、浄水場を廃止するため、緊急時のバックアップ水量の確保が課題になります</p> <p>■平成 34 年度において、小鹿野町、吉田地区、皆野町方面への配水を行う場合、日最大給水量に対して、別所浄水場の施設能力が不足します。そのため、峰沢・松ノ木沢・山田地区の系統切り替えの時期(平成 37 年度)まで小鹿野浄水場の一部を継続して運用する必要があります。</p> <p>■新秩父ミュージアムパーク配水池へ 2 段階による加圧を行い、配水池からの配水で減圧しておりエネルギーの消費量が多く、ランニングコストが高くなることが懸念されます。</p> <p>■水利権の変更 小鹿野⇒別所</p>
概 要 図	別冊資料

別所浄水場から新秩父ミュージアムパーク配水池の送水管の口径設定

別所浄水場から第 1 加圧ポンプ所まで				第 1 加圧ポンプ所から第 2 加圧ポンプ所まで			
ヘーゼンウィリアムズ式				ヘーゼンウィリアムズ式			
H	摩擦損失水道(m)			H	摩擦損失水道(m)		
C	110 流速係数			C	110 流速係数		
D	0.35 管内径(m)			D	0.35 管内径(m)		
Q	0.08 流量( $\text{m}^3/\text{s}$ )			Q	0.08 流量( $\text{m}^3/\text{s}$ )		
L	1,750 延長(m)			L	1,750 延長(m)		
		送水量				送水量	
		日最大水量				日最大水量	
損失	5.228 m		7,200 $\text{m}^3/\text{日}$	損失	5.228		7,200 $\text{m}^3/\text{日}$
勾配	3.0 ‰			勾配	3.0		
		設定				設定	
		計算				計算	

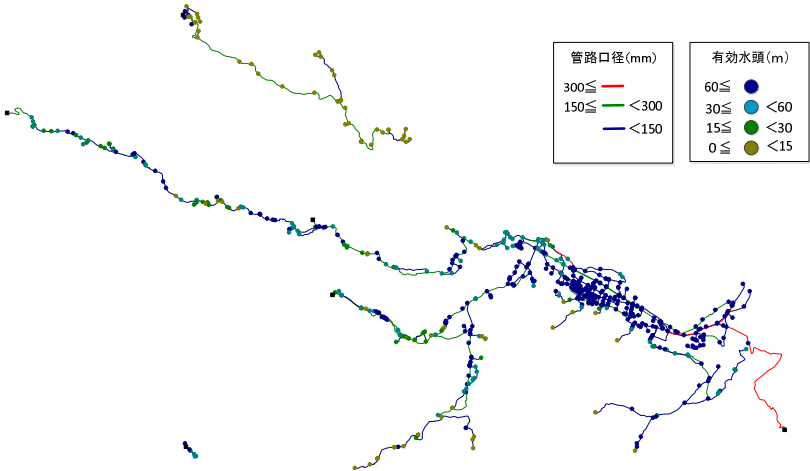


図 1-4. 新秩父ミュージアムパーク配水池から小鹿野地区エリアへ配水した場合の有効水頭分布状況

### ③皆野第1配水池への配水拡大

概要	<p>別所浄水場から皆野第1配水池に約 3,900m<sup>3</sup>/日の配水が行われていますが、耐震基幹管路を整備し配水地域を切り替え、この配水量を拡大します。これにより、皆野浄水場が廃止できます。</p> <p>(運用方法や送水時期の考え方)</p> <p>■別所配水池 (LWL 259.0m) から皆野第1配水池 (HWL 208.8m) へ配水拡大を行います。</p> <p>■耐震基幹管路 (Aルート、B ルート) の整備による峰沢・松ノ木沢・山田地区方面の系統切り替えと、加圧ポンプ等の整備を平成 37 年度までに行うことで、平成 38 年度以降、段階的に皆野町・長瀬町に配水量を拡大することが可能となります。</p> <p>(平成 37 年度の水運用フロー)</p>
効果 (利点)	<p>■施設統廃合による更新費用及び維持管理費の削減</p> <p>皆野浄水場とその取水施設の廃止</p>
施設整備	<p>■加圧ポンプの整備 Q=7,800m<sup>3</sup>/日 h=30m</p> <p>■配水管の整備 φ250mm の一部ルートの増径(更新需要で費用計上)</p> <p>■耐震基幹管路の整備 B ルート φ350 L=2,421m</p>
課題	<p>■秩父市内の水圧への影響</p> <p>現状では、市内水圧への影響を最小限に止めることができるよう、比較的需要の少ない PM10:00～AM8:00 時間帯で送水しており、送水拡大に伴う秩父市内の水圧への影響が懸念される。</p> <p>■別所浄水場系の有収率が低い</p> <p>別所浄水場系は有収率が低く、管路の漏水量がやや多い。このため、別所浄水場では、配水量の他、管路の漏水を考慮する必要がある。</p> <p>■別所浄水場の施設能力 (20,000m<sup>3</sup>/日) 上限での運用が懸念される</p> <p>平成 37 年度において、皆野第1配水場への送水拡大を行う場合、別所浄水場の施設能力は、漏水量を考慮しても約 1,350m<sup>3</sup>/日不足する。そのため、運用当初は最大送水量を約 6,000m<sup>3</sup>/日として、段階的に送水量を拡大します。その後、目標送水量に達した時点(平成 38 年度以降)で皆野浄水場を廃止します。</p> <p>■水利権の変更 皆野⇒別所</p>
概要図	別冊資料



#### ④新三沢配水池への配水計画

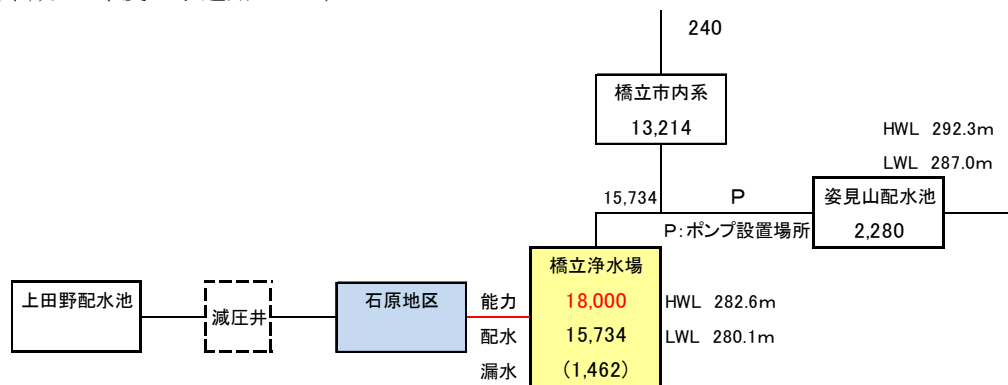
<p>概 要</p>	<p>橋立浄水場及び基幹管路を整備し三沢地区に新たな配水池を建設し、三沢地区へ配水します。これにより、三沢浄水場が廃止できます。さらに、高篠浄水場エリアに配水区域を拡大することにより高篠浄水場を廃止できます。</p> <p>(運用方法や配水時期の考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■橋立高区配水池 (LWL 280.1m) から耐震基幹管路 (Aルート) を経由し、大野原交差点付近から新三沢配水池 (HWL 280.0m) へ配水します。</li> <li>■配水分岐地点の工期は、平成 37 年度です。平成 37 年度時点の橋立浄水場における余力能力を考えると、配水池への配水は可能です。</li> <li>■高篠浄水場エリアへの配水拡大は、平成 38 年以降になる見込みです。</li> </ul> <p>(平成 37 年度の水運用フロー)</p>
<p>効 果 (利 点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■施設統廃合による更新費用及び維持管理費の削減</li> <li>三沢浄水場とその取水施設の廃止、高篠浄水場とその取水施設の廃止</li> </ul>
<p>施設整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■配水管の整備 φ100 L=4,160m</li> <li>■配水池の整備 V=285m<sup>3</sup></li> <li>■加圧ポンプの整備</li> <li>■耐震基幹管路の整備 Aルート φ300 L=2,115m φ400 L=1,192m</li> </ul>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■橋立浄水場系の有効率が低い</li> </ul> <p>橋立浄水場系は有効率が低く、管路からの漏水量が多い。このため、橋立浄水場系の施設能力は、配水量の他、管路の漏水を考慮する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■橋立浄水場の施設能力 (18,000m<sup>3</sup>/日) 上限での運用が懸念される</li> </ul> <p>平成 37 年度において、姿見山配水池とともに三沢地区への送水を行う場合、日最大給水量に対して、橋立浄水場の施設能力は漏水量を考慮すると、余裕水量は約 800m<sup>3</sup>/日である。そのため、日最大給水量時には、橋立系の配水池や姿見山配水池の容量を活用した運用が必要になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■水利権の変更 三沢⇒橋立</li> </ul>
<p>概 要 図</p>	<p>別冊資料</p>

## ⑤大指地区、古池地区（未給水地区）への供給計画

概 要	<p>贅川地区から古池地区まで基幹管路を整備し、古池地区の未給水地区の解消を図ります。</p> <p>さらに、大指地区までの管路整備を行い大指飲料水供給施設の廃止をします。</p> <p>(運用方法や配水時期の考え方)</p> <p>■ 平成 35 年度に工事を実施し、平成 36 年度からの運用を予定しています。</p>
効 果 (利 点)	<p>■ 未給水地区の解消</p> <p>古池地区への給水開始</p> <p>■ 施設統廃合による更新費用及び維持管理費の削減</p> <p>大指飲料水供給施設の廃止</p>
施設整備	<p>■ 配水管の整備</p> <p>大指地区            <math>\phi 75</math> L=800m</p> <p>古池地区            <math>\phi 75</math> L=3,400m</p> <p>■ 加圧ポンプの整備    <math>Q=30\text{m}^3/\text{日}</math> h=35m</p> <p>■ 配水池の整備        <math>V=25\text{m}^3</math></p>
課 題	
概 要 図	別冊資料

## ⑥石原地区への配水計画

概 要	<p>橋立浄水場系の配水池より、石原地区へ配水を行うことにより、石原減圧井の廃止ができます。</p> <p>(運用方法や配水時期の考え方)</p> <p>■旧影森浄水場の配水池から石原地区への接続工事を平成 36 年度に実施し、平成 37 年度からの運用を予定しています。平成 37 年度時点の橋立浄水場における余力能力を考えると、石原地区への配水は可能です。</p> <p>(平成 37 年度の水運用フロー)</p>
効 果 (利 点)	<p>■施設統廃合による更新費用及び維持管理費の削減</p> <p>石原減圧井の廃止</p>
施設整備	<p>■配水管の整備        <math>\phi 100</math> L=240m</p>



課 題	<p>■橋立浄水場系の有効率が低い</p> <p>橋立浄水場系は有効率が低く、管路からの漏水量が多い。このため、橋立浄水場系の施設能力は、配水量の他、管路の漏水を考慮する必要がある。</p> <p>■橋立浄水場の施設能力(18,000m<sup>3</sup>/日)上限での運用が懸念される</p> <p>平成 37 年度において、姿見山配水池とともに三沢地区への送水を行う場合、日最大給水量に対して、橋立浄水場の施設能力は漏水量を考慮すると、余裕水量は約 800m<sup>3</sup>/日である。そのため、日最大給水量時においては、橋立系の配水池や姿見山配水池の容量を活用した運用が必要になる。</p>
概 要 図	別冊資料

概 要	<p>柴原地区と長留地区の一部は、現在、谷津川浄水場から配水していますが、水压状況や管路の老朽化などの課題があるため、当面は小鹿野町の第8増圧場より、柴原地区まで配水を行います。将来は、新秩父ミュージアムパーク配水池から直接配水します。</p> <p>(運用方法や配水時期の考え方)</p> <p>■平成 36 年度に工事を実施し、平成 37 年度からの運用を予定しています。</p>
効 果 (利 点)	<p>■低水压地域の解消</p> <p>柴原地区への配水を、谷津川浄水場系から別所浄水場系に切り替えることにより、安定給水を実施できます。</p> <p>■施設統廃合による更新費用及び維持管理費の削減</p> <p>国道140号から県道(皆野荒川線)の柴原地区までの老朽管の更新費(約 2km)の削減、柴原配水池の廃止</p> <p>小鹿野第3増圧場、小鹿野第4増圧場、小鹿野第8増圧場及び所の沢増圧場の廃止</p>
施設整備	<p>■配水管の整備      <math>\phi 75</math> L=1,200m</p> <p>■加圧ポンプの整備    Q=50m<sup>3</sup>/日 h=35m</p> <p>■柴原配水池の整備    V=50m<sup>3</sup></p>
課 題	
概 要 図	別冊資料

ヘーゼンウィリアムズ式		
H		摩擦損失水道(m)
C	110	流速係数
D	0.075	管内径(m)
Q	0.00	流量(m <sup>3</sup> /S)
L	1,200	延長(m)
		日最大水量
		配水量
		65 m <sup>3</sup> /日
損失	1.072	
勾配	0.9	
		設定
		計算

## ⑧山口浄水場から森下地区への配水計画

概 要	<p>山口浄水場から日向山配水池を経由し、森下エリアに配水します。これにより、森下浄水場とその取水施設を廃止します。</p> <p>(運用方法や配水時期の考え方)</p> <p>■日向山配水池へは、森下地区の需要水量を含めても管路損失水頭が少なく、既設ポンプと既設管路(φ75)を用いて運用が可能です。そのため、管路の接続作業と日向山配水池から森下高区配水池までの圧力調整を行うことで運用することができます。計画期間の早い段階で運用を切り替えます。</p>
効 果 (利 点)	<p>■施設統廃合による更新費用及び維持管理費の削減</p> <p>森下浄水場とその取水施設の廃止</p>
施設整備	■管路の接続作業と管路内の圧力調整が必要になります。
課 題	
概 要 図	別冊資料

## 日向山配水池から森下地区への配水管の口径設定

ヘーゼンウィリアムズ式		
H	摩擦損失水道(m)	
C	110 流速係数	
D	0.075 管内径(m)	
Q	0.00 流量(m <sup>3</sup> /S)	
L	1,970 延長(m)	送水量
	日最大水量	170 m <sup>3</sup> /日
損失	10.426	
勾配	5.3	
	設定	
	計算	

### ⑨皆野第1配水池から金沢浄水場エリアへの配水計画

概 要	<p>金沢地区に新たな配水池を建設し、皆野第1配水池から金沢浄水場エリアに配水します。これにより、金沢浄水場とその取水施設を廃止します。</p> <p>(運用方法や配水時期の考え方)</p> <p>■平成 36 年度に金沢地区に新配水池(HWL 272.0m LWL 269.5m)を建設し、平成 37 年度からの運用を予定しています。</p>
効 果 (利 点)	<p>■施設統廃合による更新費用及び維持管理費の削減</p> <p>金沢浄水場とその取水施設の廃止</p>
施設整備	<p>■配水管の整備 <math>\phi 75</math> L=480m</p> <p>■加圧ポンプの整備 Q=60m<sup>3</sup>/日 h=60m</p> <p>■配水池の整備 V=126m<sup>3</sup></p>
課 題	
概 要 図	別冊資料

### 金沢地区の配水管の口径設定

ヘーゼンウィリアムズ式		
H	摩擦損失水道(m)	
C	110 流速係数	
D	0.075 管内径(m)	
Q	0.00 流量(m <sup>3</sup> /S)	
L	1,600 延長(m)	
	日最大水量	配水量 73 m <sup>3</sup> /日
損失	1.764	56
勾配	1.1	
	設定	
	計算	



⑩小鹿野浄水場エリアの拡大（竹平浄水場エリア・三山浄水場エリアへの配水）

概 要	<p>新秩父ミュージックパーク配水池から高区配水池に配水し、竹平浄水場エリアの大塩野地区方面、三山浄水場エリアの松坂・栗尾地区方面への小鹿野浄水場エリアの拡大を行います。これにより、浦島浄水場とその取水施設及び三山浄水場とその取水施設の廃止ができます。</p> <p>（運用方法や配水時期の考え方）</p> <p>■平成 37 年度に工事を実施し、運用を開始します。</p>
効 果 （利 点）	<p>■系統切り替えに伴う給水エリアの拡大</p> <p>竹平浄水場エリアの大塩野地区、三山浄水場エリアの松坂、栗尾地区に配水できます。</p> <p>■施設統廃合による更新費用及び維持管理費の削減</p> <p>浦島浄水場とその取水施設の廃止、三山浄水場とその取水施設の廃止</p> <p>小鹿野浄水場系の低区配水池の一部廃止</p>
施設整備	<p>■配水管の整備</p> <p>三山浄水場系    <math>\phi 100</math> L=30m、仕切弁の切り替え</p> <p>竹平浄水場系    連絡管(水管橋等)の整備    <math>\phi 100</math> L=400m</p>
課 題	
概 要 図	別冊資料

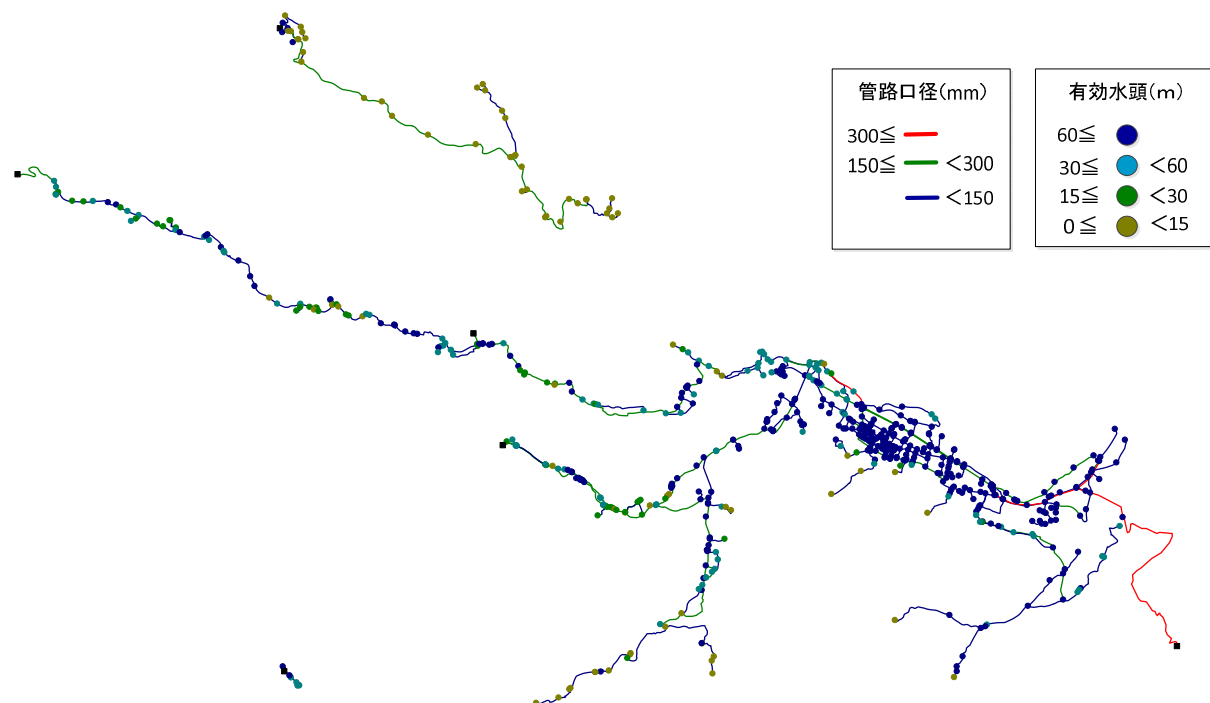


図 1－5. 秩父ミュージックパーク配水池から小鹿野地区エリアへ配水した場合の有効水頭分布状況（再掲）

### ⑪河原沢浄水場エリアの拡大（三山地区への配水）

概 要	<p>河原沢浄水場のエリアを拡大して、三山地区に配水を行うことにより、三山浄水場を廃止できます。</p> <p>（運用方法や配水時期の考え方）</p> <p>■平成 37 年度に工事を実施し、運用を開始します。</p>
効 果 （利 点）	<p>■施設統廃合による更新費用及び維持管理費の削減</p> <p>三山浄水場とその取水施設の廃止</p>
施設整備	<p>■配水管の整備            <math>\phi 100 \quad L=30m</math></p> <p>■減圧槽の整備            <math>V=10m^3</math></p>
課 題	
概 要 図	別冊資料

### ⑫上田野配水池及び橋立浄水場への配水計画

概 要	<p>安谷川浄水場から上田野配水池及び橋立浄水場への配水することにより、将来見込まれる取水施設の更新費用及び維持管理費を削減します。</p> <p>（運用方法や配水時期の考え方）</p> <p>■安谷川浄水場から上田野配水池への配水は現有施設で可能です。</p>
効 果 （利 点）	<p>■施設統廃合による更新費用及び維持管理費の削減</p> <p>矢野沢取水施設、持小舎取水施設の廃止</p> <p>■上田野配水池へは、現況施設で日最大配水量を配水可能</p> <p>■橋立浄水場へ配水（約 <math>400m^3</math>/日）することができます。</p>
施設整備	<p>■安谷川浄水場から上田野配水池への配水</p> <p>※現有施設で配水可能</p> <p>■安谷川浄水場から橋立浄水場への配水</p> <p>※加圧施設や配管整備が必要になります。</p>
課 題	<p>（安谷川浄水場から橋立浄水場への送水）</p> <p>■橋立浄水場への配水は、加圧施設や配管の整備が必要になります。</p> <p>■現状で安谷川浄水場の水源に余裕がない状況です。</p>
概 要 図	別冊資料

### ⑬中井浄水場から大畑浄水場エリアへの配水計画

概 要	<p>水需要が減少し、中井浄水場の施設能力に余力ができた段階で、大畑地区への配水を行うことにより、将来見込まれる大畑浄水場が廃止できます。</p> <p>(運用方法や配水時期の考え方)</p> <p>■大畑地区の水需要が、中井浄水場の施設能力で安定給水可能となる段階で、配水系統の切り替えを行います。</p>
効 果 (利 点)	<p>■施設統廃合による更新費用及び維持管理費の削減</p> <p>大畑浄水場とその取水施設の廃止</p>
施設整備	<p>■配水管の整備      <math>\phi</math> 75    L=300m</p>
課 題	
概 要 図	別冊資料